

ふるさとに鐘の音が響き渡る

浄光寺(金出地)で鐘樓の板築工事

このたび、金出地の浄光寺で、板築工法による鐘樓の改修工事が行われ、壇徒や一般の方々の見学が相次ぎました。

板築工法とは、釣り鐘の下に瓶を埋め込み、鐘の響きを高める工法で、能舞台などに使われていますが、鐘樓で本格的に取り入れられるのは、近隣でも大変珍しいといわれています。

同寺の鐘樓は千八百年(寛政

十二年)に建造。老朽による改修にあたり、この伝統的な板築工法が採用されました。

高さ一・一〜一・二m、直径八十五〜九十五cmの六つの素焼きの瓶を梅鉢の形に並べ、特別に調合した土を少しずつきねで突き固めて埋め込み、瓶の上に竹のすの子を敷き、また上部を突き固めて覆います。

除夜の鐘までには間に合うよ



泥田に足をとられて「オットット」

一環で、苗作りから秋の収穫までを昔ながらの作業方法で行うもので、毎年体験学習を終えると、農業の大切さや生産の喜び、自然への感謝など素直な感情あふれる作文が綴られています。

また、地元の方のご協力により、看板に稲の管理内容が記録されたり、田の端にもものさが立てられたりして、稲の成長がわかりやす



記録看板とのぼりの立てられる体験学習田

いように配慮されています。



6つの瓶が並べられ、これから埋め込まれます

うに工事が進められており、皆さん、当日の鐘の響きを楽しみにしていました。

高田少女バレーが県大会ベスト8と大健闘 町内少女バレーで初めての県大会出場

6月22日、新宮町で開催された第17回ライオンカップ全日本小学生バレーボール西播予選にて、高田少女バレーボール教室が第3位に輝き、県大会への出場権を獲得。これは、町内の少女バレーボールチームとしては初めてのことです。

7月6日、西宮市での県大会には県下24チームが参加。初出場であり「まず1勝」を合言葉にチーム一丸となって挑戦しました。1回戦、2回戦と勝ちあがり、3回戦では接戦の末、惜しくも生瀬体振少女クラブ(阪神)に競り負けましたが、堂々ベスト8の成績を残しました。

同チームは、現在部員が1〜6年生の17名。桐谷政義さんの指導のもと週4回の練習に励んでいます。新たな伝統づくりに向けてがんばってください。



参加し、処理場で完成式が行われました。

同施設は、対象人口が四百十人。約四kmの管路と三箇所の中継ポンプ及び処理場が総事業費五億七千万円をかけて整備され、八月一日から使用が始まります。

同地区は赤松円心の里というところもあり、処理場はその居城「白旗城」をイメージして建設され、入り母屋造の屋根や白壁風の外壁、格子窓など工夫されています。

また、砦のように擬木が周りを囲み、国道沿いからも注



砦のような浄化センター

目を浴びています。